

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100392		
法人名	有限会社 クラウド		
事業所名	グループホーム 幸樹		
所在地	秋田市泉南1丁目4番20号		
自己評価作成日	平成23年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成23年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内に閉じこもらない施設を目指している。冬季期間以外は出来るだけ施設内の畑や、向かいの街区公園へ散歩へ行き、少しでも外気に触れるよう支援をしている。また定期的にボランティアさんも入られており、外部の方との接触の場として入居者より喜んで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が家庭的な雰囲気の中で日常生活を営めるよう理念に沿ったサービスが提供されています。住宅街に一般住宅のようにあって利用者のための畑を一面に設け、ホーム前の公園での日々の散歩時には挨拶を交わして地域に溶け込んだ生活をさせています。開設後1年が経過し、当初からの職員が全員で近隣の方々との繋がりを大切に、利用者が安心して暮らせるよう取り組まれている努力の様子が感じ取れます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者および、日勤・早番・遅番・夜勤者がそれぞれの勤務体制にある職員が、常に理念に基づき共有して実践している。	開設当初に目標とした、「家庭的な雰囲気の中で自立した生活が営めるよう利用者を支援したい」ということを理念に掲げて全職員が共有し、日々のケアに活かして実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や、買物、ボランティア等で地域との付き合いが出来ている。	町内会の会長宅がすぐ近くにあり、町内に溶け込みやすい雰囲気を作ってくれています。事業所としてできることも積極的に申し出て地域のお祭りの運営に関わったり、行事に参加する等利用者が地域と繋がりがりながら暮らせるよう努力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	幸樹たよりを発刊しているが、今後は内容をわかりやすく検討し、地域のも発刊することができる事により理解が得られると思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成23年6月30日に第1回を開催。今後、2ヶ月に1回の開催を目指す上で、討議内容でサービス向上につながる物であれば活かして行きたい。	法人本部、包括支援センター職員、民生委員、町内会会長の出席があったものの定期的な開催ができず、この1年で1回開催されただけです。	基準省令では概ね2ヶ月に1回開催することとしており、利用者や家族にも参加を働きかけて、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査等で来所された時に実践できている。しかし、頻繁には行われていない。	市担当職員とはできる限りの連携をとっています。今後は包括支援センターとの連携も積極的に強めていきたいと検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い方もおり、玄関にセンサーを設置し、見守り強化している。さりげない声かけを行い少し外にでてみる等の対応をしている。	日々のサービスの中で言葉や態度による拘束がないよう注意し合い、拘束のないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の目線になり、意思尊重しており虐待の無いケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいるため、ミーティングで学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項や契約書等を説明しているため、十分理解をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等のご家族との情報交換は出来ている。	面会時の他、電話連絡の際にも意見や要望を聞くようにしています。定期的に送付する報告書に返信してくれる家族もあり、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換をし、反映されている。	法人本部からの訪問が度々あり、管理者と共に意見が言い出しやすい環境作りをされており、職員の気づきやアイデアがケアに活かされています。グループホーム連絡協議会で収集した情報を共有しサービスに反映できるよう検討しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との年に一回の面接があり。実践できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスを通し、ケア面でのアドバイス等をしており、職員間でフォローし合い、トレーニングとなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の情報交換が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向に出来るだけ寄り添うことが出来るよう、初期の段階で信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心していただけるよう、柔軟な対応に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	本人とご家族の意思に耳を傾ける姿勢は実践できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段からのスタッフと入居者の信頼関係を築く環境はできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りなどで、ご家族には利用者の様子を伝え、共に支え合っていく関係は出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の訪問時には、気兼ねなく馴染んでいただけるように接することが出来る。	一人ひとりの生活習慣を把握して尊重し、関係者にも働きかけて継続できるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの出来ること、皆さんに認めて頂けることは、そのような機会を何気ない形で設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・普段からのより良い関係作り。 ・普段からの情報交換が実践できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりを通して、おおよそ本人の希望、思いは把握できている。	困難な場合は家族から情報を得ることもあります。日々接する中で利用者の思いを書きとめておいて情報を共有し、利用者本位に暮らせるよう対応されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中で、本人の歴史、生きがい等把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者が過ごしやすい環境作りに努めている。 ・スタッフ同士の情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフミーティングの実施により、その都度意見交換を行い、情報交換を行っている。	気付きノートや看護師と職員間の医療伝達ノートによって情報を共有して話し合いが行われています。レベルアップした際の見直しも含め、現状に沿った介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記号や番号で介護計画に添った介護の提供を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向かいが公園であるため、日常的に散歩に行っている。泉の夏祭り等に参加し入居者数名であるが喜ばれた。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診されている入居者が10名おり、適切な医療が受けられている。また7名は、かかりつけ医がおり日常状況、バイタルサインも医療ノートで伝達が出来ている。	通院介助は可能な限り家族が対応しています。医師と看護師間で医療ノートが作成され、更に医療伝達ノートで職員と情報を共有する仕組みができており、適切に受診できるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の気付きノートや医療伝達ノートを作成し、その都度情報があるため、適切な支援が出来ていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、看介護サマリーを通して、情報を提供し、また、出来るだけ訪室に努め、医療機関との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングで終末期のありかたを学習する機会があり共有した。また、ご家族とも話し合い、チームで支援しようと取り組んでいる。	事業所として終末期ケア体制をとっていることを契約時に家族に説明し、職員も方針を共有しています。十分な態勢で臨めるよう、今後更に職員と話し合いを重ねていくことを検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所時、救急救命士による講習を受けたが、定期的ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の計画はしているものの、現在まで出来ておらず、7月中に行う予定となっている。	今回の外部評価直前に1回目の訓練を実施しましたが課題は多く、今後話し合いの機会を設け、回数を重ねることを検討しています。	運営推進会議を利用して近隣の協力が得られるよう働きかける他、火災に限らず夜間を含めた様々な場面を想定した訓練を行って利用者、職員が安心して避難できるよう取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の目線にあわせ、ゆっくりとした声掛けを行っている。	利用者の人格を尊重し、年長者に対する言葉かけで対応されているのが確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話を通し、本人の希望など遠慮無く発現して頂くような環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりの気持ちを重視しながら、周りの調和を大切にすることが難しいときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	メリハリのある一日の生活リズムを作り、季節感にあった身だしなみ・服装の援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理(下ごしらえ程度)・盛り付け・後片付け等、本人が得意とする事に対し、協力していただいている。	利用者も食材の買物に同行し、時には献立のヒントをもらったり、利用者の能力に応じた範囲で職員と一緒に作業されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の把握に努め、無理の無い水分摂取を行っている。また、1人ひとりの食事のペースを大切に考え実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けの実施。 (全員は出来ていない)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録から個々のリズムに合わせた声掛けと誘導が出来る。	利用者自身がトイレで排泄されており、職員の見守りによって支援されています。失敗した時もプライバシーに配慮した対応をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握する事で、便秘時の飲食物の工夫や軽い運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の体調をみて、本人の意思を重視しながら行っている。	いつでも入浴が可能で、利用者の希望や体調によっては清拭で清潔保持できるよう対応されています。冬期間には就寝前の足浴も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態観察をしながら、自由に休憩をしてもらうように実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルにて薬の目的などを理解している。服薬ミスがないよう十分に注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく生活できるようにレクリエーションや散歩などを取り入れている。入居者1人ひとりの得意なこと・楽しみごとを見つけて生活にメリハリを持っていただくよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近場での散歩や、買物等は本人希望を聞き支援している。レクリエーションの一環でドライブ企画をして楽しんでいる。	ホーム前の公園に散歩に出かけたり、畑仕事や草取り等日常的に戸外に出かけられるよう、利用者本位に支援されています。また家族が外に連れて行ってくださることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時には、管理できる方は所持して頂き、買物が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや個々の居室に季節にあった折り紙や、飾りつけをしている。	冷房に頼ることなくカーテンで陽射しを調節し、利用者にとって居心地の良い空間となるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	心情に寄り添うことができるよう行動・表情の観察を実践している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で布団にて寝ていた方に関しては、無理にベッドでの生活ではなく、家にいたときと変わらぬ生活ができる様に支援している。	利用者ごとに色分けしたのれんで居室の間違いを防ぐ工夫がされています。仏壇や使い慣れたものを持ち込んで暮らしやすいように配置し、個々の生活の場としています。	高い位置にある棚からの落下を防ぐ対応策を話し合い、利用者が安全に過ごせるように工夫されることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が建物内部であたたかみを感じていただけるような安全な環境作りを実践している。		